



世界に希望を生み出そう

Vol.62

No.32

第2903例会
2024年5月28日

例会報告

5/14 会員数 22名中 13名

出席率 61.90%

【訂正出席率】

4/9 訂正なし



会長・幹事報告

- 7日(火) 理事会・被選理事会・例会【卓話】第6回クラブフォーラム
- 8日(水) 東京丸の内 RC に、小野社会福祉フェスティバル実行委員長、鈴木会員がキャラバン隊でメイキャップに行かれました。
- 10日(金) 東京東 RC に、大澤会長エレクトが、キャラバン隊でメイキャップに行かれました。
- 10日(金) 東京リバーサイドロータリークラブに小嶋会員が卓話に行かれました。
- 10日(金) 地区研修協議会 【バーチャル開催】☆15:00～16:00【会長幹事部門】大澤栄一会長エレクト・堀次年度幹事☆16:30～17:30【クラブ運営支援部門】末次会員・熊川会員☆8:00～19:00【職業奉仕部門】小野会員・藤崎会員
- 14日(火) 例会 東京ベイロータリークラブ 合同例会(昼例会) 【卓話】東京ユナイテッドバスケットボールクラブ代表取締役会長家本賢太郎氏 演題「バスケットボールで人と地域の「つながりを創る」
- 14日(火) 地区研修協議会 【バーチャル開催】☆10:00～11:00【社会奉仕委員】古賀会員・河西会員☆15:00～16:00【国際奉仕部門】伊藤海会員・河西会員☆16:30～17:30【青少年奉仕部門】鈴木会員・末次会員☆16:30～17:30【ロータリー財団部門】伊藤三千男会員・伊藤海会員☆16:30～17:30【米山奨学部門】伊藤海会員・小嶋会員
- 20日(月) 東京城東 RC に河西会長がキャラバン隊で、メイキャップに行かれます。
- 21日(火) 地区会計処理 ガバナー事務所鈴木会員

WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2580地区

東京江東ロータリークラブ

2023～2024年度 テーマ

世界に希望を生み出そう

ロータリアンの心に火をつけよう Get the Joy of Rotary
RI会長 ゴードン R. マッキナリー 地区ガバナー 栗木 一夫

今日の卓話

地区青少年交換委員 (臨海西 RC)

島崎久志氏

株式会社藤江 井田紗也子氏

伝統と革新

～革新ながら伝統を守ろう～
クラブ会長 河西 史郎

次回例会案内

令和6年6月1日 (土)

第4回社会福祉フェスティバル

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp



河西会長：家本さん卓話楽しみにしております。
 伊藤(海)幹事：本日も、よろしくお願ひします。
 菅澤君：にこにこ3,000円いただきました。
 伊藤(三)君：東京ベイの皆様ようこそおいで下さいました。楽しい合同例会にしましょう！
 青木君：大好きなベイロータリーの皆様よろしくお願ひします。
 小嶋君：ベイさんとの合同例会楽しみです。毎回やりませんか？
 小野君：ベイさんとの合同例会楽しみにしておりました。
 田澤君：家本様、宜しくお願ひ致します。
 大木君：家本賢太郎様、卓話よろしくお願ひします。
 堀君：今日もよろしくお願ひします。
 熊川君：本日もよろしくお願ひします。
 野村君：家本様宜しくお願ひ致します。

合計 45,000 円
 累計 1,885,500 円

<委員会報告・その他>

【回覧】たんぽぽ通信春号 NO.168、たよりウィズ NO.296、東京都消費生活センター活動推進課より、パンフレットチラシ【配布物】週報 NO.31、東5クラブ合同例会報告書（参加出席者のみ）

【委員会報告その他】●小野社会福祉フェスティバル実行委員長：フェスティバルお誘い●東京ベイ RC 石渡秀雄様：7月19日(金) 濡式のご案内。

次の例会は、6月1日(土) 第4回社会福祉フェスティバル例会は、6月4日(火)となっております。欠席される方は、事務局までお知らせください。

2024年5月のロータリーレート [1ドル157円]

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL: 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日12時30分～13時30分
 ●事務局 / 東京都江東区東陽6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL: 03(5632)3777 FAX: 03(5632)3737



世界に希望を生み出そう

株式会社東京ユナイテッドバスケットボールクラブ

代表取締役会長 家本賢太郎氏



皆様こんにちは。ただいまご紹介に預かりました東京ユナイテッドクラブ会長の家本賢太郎です。江東ロータリーの皆様には2022年の3月に一度お話をさせていただいたことがありますたが、思いがけず朝日健太郎先生から電話があり、急速二度目の卓話の機会をいただきましたことになりました。朝日さんは早稲田大学大学院スポーツ科学研究科の同窓生で、私は1期生で彼が後輩である4期生という関係であります。

お互いスポーツに関わり、地域をスポーツで盛り上げるという点で一緒の思いを持っている仲間でありますので喜んで今回お話を受けさせていただきました。

本日はお話をふたつさせていただきたいと思います。ひとつめは、今日はじめてお会いする方もいらっしゃいますので、家本賢太郎とは何者なのか?と言う話、そしてふたつめに申し上げたいのはスポーツが持つ力。このふたつをお伝えしたいと思っております。今、私はこの壇上にトントンと歩いて上がりましたが、実は私は元々、中学2年生から5年間車椅子に乗っておりまして、一生歩けないと言われ、身体障害者の手帳もいただいておりました。バスケットボールとの縁も、そこで車椅子バスケットボールをしたことでできた縁でございます。小学校時代はプロ野球選手になりたいと思っておりました。途中、父の仕事の関係でポーランドのワルシャワ1988年から1年間住んでいました。その前はまだベルリンの壁があった時代の東ベルリンに住んでいたこともあります。父、母、妹は妹が音楽の大学院出るまでワルシャワにいましたが、私は野球を生きる道としており、日本で育ちました。そんな家庭の中で、中学に入って脳腫瘍ができ、中学3年間で50日しか学校には行けなく、ほとんど病院での過ごしました。そして最後に受けた脳腫瘍の手術がうまくいかず車椅子の生活になりました。ただ、先に申し上げておきますが、当時大変苦しい思いをしたのは確かですが、その経験がなかったら今がなかったと思っております。バスケットボールを仕事をすることができるしなかったと思いますし、15歳の時に企業化したので、会社経営を27年間続けておりますが、その時その時「なぜ自分だけがこんな思いを?」と考えるのではなく、その先にあるつながりを見据えて与えられた試練だと思いながら生きてきました。少し話しが横にそれましたが、1996年インターネットの黎明期に病院のベッドの上でプログラミングを学び、高校にあがるのを諦めて、15歳の時に大検(現高卒認定)資格を取得いたしました。同時にIT会社クラオラオンライン(現社名クララ)を立ち上げました。同年代の友人と一緒に高校には行けなかったのですが、勉強をしたくて大学にはいました。体育の出席単位が足りず、自主退学をしたのですが、その時点で大学院の試験に受かっておりましたので、学士はないのですが、修士課程の大学院に進みました。それが、先ほど申し上げた、平田竹男教授のゼミでございまして、彼は元々通産省官僚でした、ブラジルをはじめとした南米のエネルギー政策を専門にされる中で、サッカーに出会い、帰国された後Jリーグの立ち上げに携われた方です。その方が、学問の世界に来られるとのことなので、その門を叩きました。平田ゼミで学んだスポーツに関わる仕事をしたくて、今から15年前にスポーツとITの専門の会社を新たにつくりました。例えれば、いままでに23区全域で文科省、スポーツ庁が進めている部活動地域移行という施策があります。これは学校の先生達の負担軽減、学校でできる運動部・文化部の種目も限られているという課題を地域が担うものであります。現場でうまく移行ができるかというと、必ずしもそうではないという現状もあります。元々私どもは日本スポーツ協会(旧日本体育協会)のシステムをやらせていただきまして、指導者の管理、スポーツ少年団のデータ構築をする仕組みを創ってきたのですが、最近はその仕事の延長で部活動の地域移行をどうすればスムーズにできるかを考えております。実際私どもの東京ユナイテッドは中央区月島の部活動に指導員を派遣したり、プロチームが地域の活動と連携して指導に関わっていく取り組みをしております。27年間オンライン、いわゆる空中戦の仕事をやってきましたが、現場で地域の指導をするというものは、今までの仕事のやり方と大分距離があるものでした。ただ、これから私自身がどうありたいかを考えていく内に、「地域に根ざす」こういう言葉に出会いました。これは私の言葉でもなんでもなく、元はJリーグの創始者である川淵三郎さんの言葉です。この方は、Jリーグを大きくされただけでなく、その後Bリーグ(バスケットボールのプロリーグ)の困難なプロ団体統合にも尽力され、プロチームはとにかく地域にしっかりとねぎさすべきなのだとおっしゃられています。私はさらにその上を行く「地域にねぎさしきる」という考えをこれから先の人生の軸にしていきたいと決めました。そのひとつが、東京2020オリンピック大会のレガシーである、有明アリーナ、我々東京ユナイテッドのメインアリーナのハード面(建物)だけではなく、ソフト面(地域)に携わりたいと思いつが出てきました。19年前に上京した初のオフィスが江東区有明だったという縁から、有明でバスケチームをやってみたいと思、バスケだけではなく、ハンドボール、バレーボールなど様々な競技のプロチームが名乗りをあげた中で、光栄なことに当面の間の使用権をいただくことができました。今B3に参戦して2シーズン経過しました。数週間にシーズンがおわったばかりですが、直近の報告をここでさせてもらうと、最初のシーズンはまずはチームを観に来ていただかないことを周辺地域の皆様にとにかくお声かけをさせてもらいました。選手と一緒にになって朝駅に立ち、チラシを手に取っていただけるように必死に活動をいたしました。

おかげさまで、ホーム開幕戦で9295人(当時Bリーグ観客動員数記録更新)の方に来ていただきました。昨シーズンのBリーグは52チームほどこのチームも入場者記録を塗り替えるという賑わいをみせております。その中で私達はもう一段、次は5桁の世界をみたいという目標を持って、もっ

とチラシを刷り、デジタルマーケティングを分析し、作シーズンは10300人の観客動員数を叩き出し、これまたその時点でのBリーグ日本記録を塗り替えることができました。残念ながら、その後、TOYOTAさんが持っているアルバルク東京さんが代々木第一体育館で10400人という記録を更新されました。また、来シーズンには11,000人、もしくは12,000人の動員数を目指していきたいと考え、いままさに編成中でございます。私がチームのことに口を出すとチームはぐちゃぐちゃになってしまいますので、チームの戦略はフロントに任せ、見守るだけにしております。ただ非常に楽しみな来シーズンになると思っておりますので、是非皆様にも有明アリーナに足を運んでいただければ幸いです。私どものホームゲームにどれくらいの割合でお客様が来ていただいているのかと、先ほどデータを確認してきたのですが、全体の43.1%が江東区内の方々、次いで8.3%が中央区内の方々とこの2つの区で全体の半数を占めています。私が目指している「地域にねぎさしきる」という環境が出だしからできているのではと思っております。ユナイテッドの試合は他のチームの試合と比較すると、居住している場所から近い距離で観に行くというデータが出ております。実際誇れることをいたしましては、1万人来て頂いた日、アリーナにはペビーカーが300台以上、さらに言うと1100台の自転車が駐輪されていました。プロの試合としては、かなり珍しいことであります、いかに周辺住民の皆様にお越しいただけたかの証明につながったと思っております。話を戻しますが、私がプロバスケのチームを持ちたいと思った理由が人と人の繋がりを世代、バッグルアンドを越えて作っていく、すなわち「MAKEUNITED」を理念にしています。私たちのチームの存在意義は、自分たちが媒介となって、皆様の新しい繋がりがそこで生まれることであります。具体的には、昨シーズン、プレオフを香川県の高松市で開催されました。そこに100人近く江東区、中央区のサポーターが高松まで二泊三日、場合によっては三泊四日で来くださいました。その方達は、それまで全くお互い関係の無い他人同士であったにも関わらず、東京ユナイテッドを応援してるという接点で仲良くなっています。いきなり大きなことをしようとかは叶わないかもしれません、小さな繋がりをちょっとずつ広げていきたいと思っております。もう一つ、おもしろいことがあります。我々のチームのホームタウンはどこですか?と訪ねられる時には江東区との連携協定もありますし、中央区区長も応援していただいております。ですので、「東京ベイエリアがホームタウン」になると考えております。そんな中で2年後には、江東区青海にトヨタ自動車さんのアルバルク東京さんがメインアリーナをお持ちになられます。江東区内に2つのバスケットチームが存在することになります。さらに、有明コロシアムでは渋谷のサンロッカーズさんが何度も試合をなされておりました。地域住民の皆様視点では色々なチームの試合が観れる面白さもあり、全国各地の方が江東区に興味を持てもらおうきっかけとなり得ることにもなります。また、国内のみならず、海外からもバスケットの試合を観に行くことをテコとして日本の観光を楽しむ、いわゆる「スポーツツーリズム」に繋がるのではないかと期待を寄せております。江東区にいけば毎日バスケの試合が観ることができ、アウェイで来られる方々にも満足してもらえるように、各チームスポーツツーリズムに力を入れております。もうひとつ、ポーランドに住んでいた経験がありますが、このポーランドという国は地図上から歴史上3回消えている国であります。東西を強国に挟まれながら、厳しい歴史をたどってきましたし、昨今ではウクライナ情勢の中でNATOの前線にたってもいました。私の父と親戚がポーランドの歴史、経済を専門に教鞭をとっていたのですが、今、この様な形でポーランドの名前を聞くようになるとは思っていませんでした。バスケットボールはさわめて多様性を教えてくれる存在であると私は考えております。昨シーズン、私達のチームにいたのがコンゴ出身の選手と、ナイジェリア出身の選手がありました。コンゴの選手は高校生から来日して日本語を勉強して、日本の大学に進学して、日本のチームでプレーをしたいと希望して10年近く日本に滞在しています。ナイジェリア出身の選手は複数のチームを渡り歩いていますが、既に5、6年日本でプレーを続けており、日本が大好きだといってくれています。もちろん、アメリカや西ヨーロッパの選手も多数Bリーグでは活躍をしているのですが、みてみると、様々な国、色々なバックグラウンドの人たちがいます。私は子供が5人いますが、末の娘は特にこのナイジェリア出身の選手の方が大好きで、最初は背格好や、フレンドリーさ、チャーミングさに惹かれたらしいのですが、娘自身で地球儀を見て、どんな町からやってきたのか、どんなところで育ってきたのかをYouTube等を活用して調べたりしております。娘の実体験で紹介したところ、バスケットボールは国籍、民族、肌の色、障害の有無も含めて多様性を教えてくれる存在だと思っています。バスケットボールのチームとして強くなること、観客動員を増やすことは一つの目的ではありますが、最終的には皆様の中で何かに気づいていただけるきっかけになるような存在でありたいと願っております。最後に、27年仕事をし続けた中で、この数年で軸にしてることを話したいと思います。私は今まで会社を経営するにあたって、社長になりたいとか、金儲けをしたいとかでやってきたわけではなく、自分の役割とは何なのかを常に考えてきました。ただ、経営者としては本当に日々悩むことばかりであります。しかし、せっかくこうして社会から役割を与えられて仕事をする以上ちゃんと軸を持ってやりたいと思うようになりました。その中で、私のキーワードは何かと探し、敬愛する一橋大院の楠木建教授の「好き嫌いと経営」という書籍を読んだ後に「好きなことをやること」だと思いました。好きなことをやることが人間として一番熱量を感じることができます。エナジーを注ぐことができ、インプットもアウトプットも沢山できると思います。仕事をプライベートをわけた方がいいとお考えになられる方もいらっしゃいますが、私の場合は自分の好きなことを軸にして、それが社会の中で役目、役割を与えられ、皆様に関わることができたら幸せに思います。これからも「地域に根ざしきる」を軸にして「好きなこと」を頑張ってやっていきたいと思っておりますので、今後とも応援の程よろしくお願い致します。ありがとうございました。